

議員勉強会

平成26年2月18日

「東九州自動車道」、「コモンパーク上毛 彩葉」の進捗状況について

荒牧 弘敏

東九州自動車道建設事業や東高跡地の分譲地であるコモンパーク上毛彩葉の進捗状況について、議会から町に対して、学習の申し入れを行い、議員勉強会(町内視察)が開催され、10名の議員が参加した。

勉強会では、2つのテーマについて2名の担当課長の概要説明・質疑応答を行ったのち、2か所の現地視察を行った。

まず、東九州自動車道(築上町~宇佐市間 約28.3Km、上毛町域 約6.4Km)については、27年4月開通予定で順調に進んでおり、上毛PA(仮称)、上毛スマートICについても同様であるが、開通後の上毛町の情報発信拠点としてどのように活用していくのか、重要施策として気になるところである。

現在、町では町長を会長にすえたプロジェクトチームを構成し、新たなまちづくりや活性化の方策を検討し利活用の向上に向け協議されている。

今後、方向性が示されるが、議会もしっかりこれを捉え、利用者、町民に喜んでもらえる拠点を創りださなければならぬと考える。

次に町の大事業であるコモンパーク上毛彩葉の造成工事も予定通り進み、第1期(39区画)は昨年6月より販売が開始されており、26年10月には全区画76区画が完了する予定である。この分譲地における「コモン」※という考え方を新しいまちづくりに採用したことで、今後の町全体のまちづくりに活かしてもらいたいと願っている。

※コモンとは、住宅が接道している緑化された広場的な道路で、従来の区画道路に相当します。道路線形や舗装材料が歩行者に快適なように考えられ、歩行者や住民にとって快適で静かで、安全な住宅回りの屋外環境を形成することができます。



コモンパーク上毛彩葉



上毛PA(仮称)・上毛スマートIC工事現場

県議長会主催:町村議会議員研修会

平成26年1月20日
於:福岡市:パビヨン24

地方自治能力の必要性

宮本 理一郎

われわれ上毛町議会議員8名が研修に参加して、知識の習得と見聞を広めてきた。『日本の出番、祖国は甦る』のテーマで、青山繁晴氏((株)独立総合研究所)の講演が行われた。

青山氏はTVの討論番組などで活躍される一方で、日本で初めての独立系シンクタンクの社長をも務め、「独立と自律の理念」のもと、一切の利害関係から離れ、自由に真正面より語り、国内外の諸問題を鋭い視点と感性で指摘・追及することで有名な人物だ。講演スタイルも一風変わっており、氏は問題提起を行うものの、「その解決策や進むべき方向性などについては、聴講した一人一人が考えることだ」というものであり、私どもとしては、大きな、しかも多くの宿題を課されてしまった、というのが実感であった。

- 私たちは、ありのままの日本を知っているのか
- 日本の経済・政治は甦るのか
- 福島原子力災害の真実は何なのか
- ポスト原子力エネルギーはどうするのか、など

日本の将来を考えると、今、国民が知っておかねばならないこと、しなければならぬこと、考えなければならぬことを披露し、問題提起して、鋭い指摘をした。

現在、日本の抱える内政的、外交的問題が、いかに課題が多く、この解決策を間違えると、日本の国際的な地位は大変危険な立場になるという事実も認識させられる講演であった。

私ども地方自治をあずかる者として、地域の発展に尽力するのはもちろんのこと、視野を国内外に拡げ、政治・経済情勢の変化に即応できる地方自治能力も必要であることを痛感し、実り多い有意義な研修であった。

上毛町議会・吉富町議会との合同視察

平成26年2月13日
於:豊前市議会

豊前市議会への視察勉強会

高畑 廣視

「豊前市議会と一緒に視察しては」という吉富町議会からの誘いで、上毛町議会議員も8名が参加した。

豊前市議会では、議会改革の柱となる「議会基本条例」が22年6月に制定されているが、この条例の策定のため、議会が特別委員会を設置して、さまざまな取り組みに係る協議をしてきた経緯説明であった。特に特別委員会主導で市民(市内無作為抽出で1,000人)に対して行った「市議会に関するアンケート」の調査結果や24年度より市民に向けて始めた議会報告会の開催、本年より設置された本会議のインターネット中継設備など現場である議場での説明も受けた。

印象的だったのは、市議会に関するアンケートでは、回答者の30%が議会に関心がないとのことで、市議会広報紙の議会だよりは回答者の58%が読むということだった。読まない方の読まない理由は、内容が難しい、つまらない、知りたい情報がないなどであった。

また、議会報告会では、市議会が市に対して行っている要請事項の説明、報告会で市民から上がった要望(アンケート)の集約がなされている。開催地区における市民の参加状況も2年目に入り増えつつあり、4か所の開催地区で47人から113人の参加があったとのことである。

